

令和5年度の学校評価

本年度の重点目標 (課題)	1 スクール・ポリシーに位置付けた「本校における学び」の充実 2 ICT教育の推進 3 人間教育の充実 4 本校の魅力発信に係る取組の一層の充実 5 校務分掌のブロック化、グループ化による職員の協働体制の一層の推進と学校・PTA・同窓会の協働化の促進		
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
学習指導 (教務部)	・学力向上を図る	・学習意欲を高めるような授業に心がける。	・学習活動における達成感や満足感を大切にし、知的好奇心や向上心を育てる。 ・新学習指導要領で求められている、主体的、対話的で深い学びを実現するために、カリキュラム委員会と連携して授業改善を推進する。
		・家庭での学習習慣を身につけさせる。	・日常の宿題や週ごとの課題等で、家庭での学習を具体的に指示し、家庭学習に取り組ませる。 ・課題の実施状況や指導方法等を情報交換し、常に改善を心がける。
		・基礎・基本を定着させ、発展的な学習に取り組ませる。	・授業の予習復習や日常の宿題を励行させることで、基礎・基本を定着させる。また、発展的な学習内容を具体的に指示することで、確かな学力を育成する。
	・授業規律の徹底を図る	・授業を大切にさせる。	・わかる授業、参加する授業を心がけ、授業への意識を高めさせる。 ・授業に集中できない生徒に対しては、組織的、段階的な指導を行う。
		・学習環境を整える。	・担任会、学年会、教科主任会との連携や協力で、学習環境の整備に取り組む。
国際理解 (国際理解部)	・国際交流事業の推進と発展を図り、生徒の国際意識を高める	・メントーンガールズセカンダリーカレッジとの交流の継続	・オンライン交流等を計画し、生徒間交流を継続する。 ・令和6年相互訪問再開に向けて計画する。
		・Global Frontier 研修の実施	・委託業者と連携し、生徒の英語力及び異文化理解力を養えるよう研修内容の充実を図る。
		・中村地球市民教室の実施	・事前LTで動機付けを行い、NICと連携し内容の充実を図る。
		・生徒国際交流委員会の活性化	・委員が主体となって活動し、全校生徒の意識向上に寄与できるよう指導する。
		・留学生の受け入れ	・AFSとホストファミリーと連携し、円滑な学校生活のための支援を行う。 ・多くの生徒と交流できる機会を設ける。
		・バンコクとのオンライン交流	・円滑な実施ができるよう、計画段階から工夫する。
		・JICA 訪問の実施 (国際理解コース)	・ベトナム研修旅行の事前学習の1つとして計画する。
		・ベトナム研修旅行の実施 (国際理解コース)	・生徒や引率者の安全を確保できるよう現地の情報収集に努める。 ・異文化に触れ国際性を身につける機会となるよう研修内容の充実を図る。
		・HPでの発信	・国際理解部と国際理解コース、それぞれのニュースを発信する。
総務 (総務部)	・防災体制の整備	・防災委員会の活動を全校に向けて発信する。	・登下校を含めた学校生活における危険を把握し、様々な災害に対応できる力を養うことを主眼に防災委員会でき取り組み、防災の重要性について全校生徒に発信する。
	・PTAと学校の相互理解	・PTAが学校活動に参加する機会を確保する。	・昨年度に続いて創意工夫をすることで、PTAとの協働活動を充実させる。 ・協働活動については常任理事会や理事会での意見交換を活発にする。
図書 (図書部)	・学習情報センターとしての機能の充実	・図書資料の目録を整備する。	・図書資料の分類配列を適切にし、その目録を整備する。 ・学習の場としての機能を高めるための創意工夫を行う。 ・プロジェクターの利用などをしやすいよう整備する。
	・読書センターとしての機能の充実	・生徒の図書貸出利用増を図る。 ・ビブリオバトルの充実を図る。	・生徒の読みたい図書資料を中心に収集する。 ・展示・広報・企画で読書を喚起する。 ・ビブリオバトル充実のため、創意工夫を行う。 ・ビブリオバトルの予選、決勝の様子をHPなどで知らせる。
生徒指導 (生徒指導部)	・規律正しい生活習慣の確立	・遅刻者を減少させる。	・遅刻が多い生徒は、学年団と協力しながら「早出指導」などを実施し、基本的生活習慣を身につけさせる。
		・身だしなみを向上させる。	・常に身だしなみを整えるよう指導する。特に化粧やスカート丈を短くする行為をなくすように指導する。
		・通学マナーの向上を図る。	・【0の日】朝の交通安全指導や「下校時交通安全指導」を通して安全に通学するよう指導する。
	・いじめの早期発見	・いじめアンケートを有効活用する	・必要に応じて担任が面談し、生徒指導部と学年会で連携して解決を図る。

項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
進路指導 （進路指導部）	・より高いレベルの進路目標実現にむけて早期の進路目標設定と学力の向上	・進路指導体制を充実させる。	・担任、学年、教科と連携を図り、進路検討会での個別検討を一層充実させる。その際進路希望調査や実力テスト、模擬試験のデータなどを積極的に活用する。また、入試説明会などで得た情報の共有化を図る。
		・キャリア教育を推進する。	・LTや「総合的な探究の時間」を活用して、生徒の進路や職業に関する意識を継続的に喚起する。また、長期休業中のインターンシップへの参加を広く呼びかけ、積極的な参加を促す。
		・補習、模擬試験を充実させる。	・進路実現に向けて、教科や学年と連携して平常・夏季・冬季補習の講座内容の充実を図る。また、模擬試験の目的を学力養成と位置付け、受験を積極的にすすめるとともに事前事後の指導を充実させる。
保健 （保健部）	・校内環境美化と生徒の意識高揚	・美化週間など強化期間を設け、校内美化、ごみの減量を呼びかける。	・清掃強化期間を設け、より普段からの清掃の大切さに気付かせる。ポスター作製などでより周知を図る。 ・ごみの分別や減量化への意識づけは継続的にを行い、環境への配慮も視野に入れる。
	・健康観察と教育相談への連携	・生徒の心身の問題点を早期発見し対応する。その記録を残し、継続的な支援に繋げる。 ・必要な生徒に教育相談を結び付ける。	・保健室利用の数や理由の情報交換を密に行い、生徒の健康状態の把握に役立ててもらう。 ・必要な生徒を早期に把握し、相談体制へ結び付ける。 ・カウンセラーと担任、学年、関係部署、関係機関と連携し、生徒へのサポート体制を整える。
特別活動 （特別活動部）	・生徒会活動の充実	・議会、各委員会を活性化し、生徒の生徒会への参加意識を高める。	・議員の参加意識を高め、クラスにおいて学校行事に関する議論の活発化を図る。
		・学校祭などの行事を生徒が中心となって実施する。	・生徒会執行部と議員の意思疎通を密にし、学校行事を円滑に行うことができるようにする。
			・機関誌や広報を発行し、生徒への情報発信を行う。 ・生徒が積極的に意見を出し、主体性を持って行事の運営に当たるよう指導する。
第1学年	・基本的生活習慣の確立	・遅刻早退欠席をさせないよう、言葉がけ、記録表等を用い生活リズムを整えさせる。	・生徒指導部と連携し遅刻の多い生徒には早出指導を行うなど生活を改善させる指導を行う。また家庭との連絡を密にし、生徒の生活状況の把握に努める。
		・校則を理解させ、守らせる。身だしなみに対する言葉がけを普段から行う。	・個人指導に加え、全体集会時等に全体の規範意識を高められるように言葉がけをする。指導連絡票を利用するなどして段階的な指導を行う。
		・時間を守らせ、挨拶をしつかりさせる。	・授業開始時には授業準備を終え、挨拶をする習慣を定着させる。普段から教員からも挨拶を行うように努め、言葉がけしやすい状況を作る。
第2学年	・進路目標の明確化と学力向上	・授業を大切にすると雰囲気を作らせる。家庭学習に対する助言を行う。 ・大学進学に向けての動機づけを行う。	・授業規律を徹底し、集団で授業に集中できる環境作りを意識させる。授業を受けるのにふさわしくない状況にある生徒は個別に指導し、改善を促す。場合によっては指導連絡票を用いて段階的に指導を行う。 ・進路行事に加え、適宜卒業生の実績等を紹介し、目標実現の可能性を伝える機会を設ける。
		・進路目標を明確にし、目標を実現できるよう学習に主体的に取り組ませる。	・進路指導部や国語科の協力を得ながら志望動機について考えるなど、進路について具体的に考えさせる機会を作る。 ・進路目標のための達成できる目標として、検定取得ができるよう、教科の協力を得ながら学習に取り組ませる。
		・調査や模試の結果を活用し、実力を客観的に把握させる。また、自ら目標達成のための課題を見つけ、その対策を考えさせることで、実践につなげる。	・各担任ごとに生徒と面談をし、成績面について振り返りを行う。また、教科によっては補習などを活用して、日常の学習の大切さについて意識付けを図る。 ・日々の学習習慣が身に付かない生徒には、その都度個別に指導を行い、授業に意欲的に参加できるように促す。
	・中心学年としての自覚の育成	・学校行事や部活動等に積極的に取り組み、中心となって活動できるよう、指導、助言する。	・文化祭や学校祭の各長や修学旅行委員、室長に積極的に役割を与え、リーダーシップの育成を図る。また、授業への取り組みや行事を活用し受動的でなく能動的にかつ意欲的に物事に取り組む力を育成する。
		・下級生の模範となる行動をさせる。	・下級生だけではなく、地域からも見られているという意識を高め、身だしなみだけではなく、公共でのマナーも含め、中村高校生の模範となる行動が行えるよう、日々の生活で意識付けを行う。 ・教員個々で指導するだけではなく、チームとして生徒の指導に当たる。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
第3学年	・進路実現	・進路実現をするための環境づくりの徹底。	・身だしなみ、時間への意識、環境美化などを徹底させることで、全員が進路実現という目標に向かって進んでいく雰囲気づくりをする。また、自習室の設置、細やかな進路情報の提示、スタディサブリの活用方法の提示など、可能な範囲で、生徒が自主的に学習を行いやすい環境づくりをする。
		・自己の進路実現を達成するための具体的な方策を考え、実行させる。	・やみくもに努力するのではなく、自身の進路と真剣に向き合い、効果的な努力をさせられるように、進路や外部との連携を大切にしながら支援をする。
	・最高学年また成人としての自覚と行動の醸成	・成人として恥ずかしくない振る舞いを自覚し、後輩の模範となるようにさせる。	・モラルやマナーの指導を徹底し、成人として恥ずかしくない振る舞いを自覚し、身につけられるように支援をする。
		・積極的に学校行事等に取り組ませる。	・受験と行事を両立させ、後輩の見本となれるように支援をする。
学校いじめ防止基本方針に基づく取組	・職員の意識向上	・いじめ防止に対する職員の意識を高める。	・年度初めや年度途中に、本校のいじめ防止基本方針について触れる機会を作り、いじめ防止に対する意識を常に高く持つように働きかける。
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止	・職員の健康管理	・勤務時間を適正に管理する。 ・業務量の平準化を図る。	・在校等時間を客観的に把握し、時間外在校等時間の上限（1か月45時間、1年360時間）を遵守できるよう業務改善・分担の見直し等を行う。 ・在校時間等の状況記録の集計結果等を衛生委員会で確認し、1か月の時間外労働が80時間を超える教職員に対して、そのつど面接指導の希望の有無について確認を行い、教職員の健康障害防止に努める。 ・分掌のブロック化及びグループ化を機能させるとともに、正担任と副担任の間の業務量の平準化を進める。
その他	・中村高校の特色づくり	・国際理解教育を充実させる。	・生徒用タブレット等のICT機器や視聴覚教室を有効活用して、国際交流を進める。 ・中長期的な視野のもとで国際理解コースの在り方を検討し、教育内容の見直しを図る。
学校関係者評価を実施する主な評価項目	・学習指導における学力向上のための取り組み ・生徒指導における規律正しい生活習慣の確立 ・進路指導における一層の進路意識の育成		